

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	<ul style="list-style-type: none">音読や音読発表に意欲的に取り組む児童が多いが、正しく内容を読み取ったり、文章を書いたりする力に個人差がある。漢字やカタカナ、促音、拗音、助詞、句読点などの習熟に個人差が見られる。書き順や鉛筆の持ち方が正しく定着できていない児童もいる。	<ul style="list-style-type: none">日記などの文章を書く活動や読書活動の機会を日常的に設定し、自分の考えを表現する力や語彙力を向上できるようにしていく。漢字練習には日常的に取り組ませ、定期的に小テストを行いながら定着を図る。文章を書く際は、読み直しをすることを徹底するとともに、スパイラルに繰り返し練習することで正しい表記を身に付けられるようにする。新出漢字を「空書き」や「なぞり書き」を大切にしながら、書き順を意識して学習を行っていく。また、実態に応じて個別に指導を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none">「できた」喜びを感じながら意欲的に問題に取り組む児童が多いが、計算や長さ、水のかさ、時刻と時間など、学習の習熟に個人差が見られ、苦手意識をもっている児童もいる。たし算やひき算の意味の理解が不十分だったり、文章の意味を正しく捉えられなかったりし、正しく立式することにつまずく姿が多く見られる。	<ul style="list-style-type: none">東京ベーシックドリル等のドリル学習に日常的、継続的に取り組ませ、計算技能を確実に定着させる。実態に応じて、授業中や朝学習、休み時間等を活用しながら、個別に対応しながら習熟を図る。文章の中の大切な言葉や数を捉えられるようにするとともに、数学的な活動を多く取り入れ、図・言葉・式をつなげながら、演算決定ができるように指導を行う。
生活	<ul style="list-style-type: none">身近なことや植物の成長などに興味をもち、様々なことに気付きながら、意欲的に活動することができている。活動を通して気付いたことを詳しく表現したり、分かりやすく伝えたりすることが課題である児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">身近なことから身近な地域や地域に暮らす人々へと関心を広げていけるようにする。説明をより分かりやすくする工夫が考えながら取り組ませたり、友達と交流しながら考えを広げたりする場を多く設定し、表現力を高めていけるようにする。

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> • リズム打ちや歌唱、演奏などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。 • 鍵盤ハーモニカの運指やタンギングなどの技能については、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 曲の感じや歌詞の意味を考えさせたり、様々な曲やリズムに触れさせたりすることで、さらに楽器や曲への興味や関心を高めていく。 • 演奏するときのきまりを含め、鍵盤ハーモニカの技能をスムーズステップで丁寧に指導し、運指の定着を図る。
<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 創作活動に意欲的に取り組むことができているが、さらにイメージを膨らませて作品の質を高めようとする児童は少ない。 • 絵の具、はさみ、のりなどの用具の使い方や表現する技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童の意欲を高められるよう導入を工夫したり、教員や友達とのコミュニケーションを大切にしたりすることで、イメージを膨らませられるようにする。必要に応じて、最後まで丁寧に仕上げるよう、声掛けを行っていく。 • 用具の扱いに慣れることや表現の仕方を理解することをねらいにした作品づくりを計画的に位置付け、定着を図る。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動経験や休み時間の過ごし方によって、運動技能にも個人差が見られ始めている。 • 指示された運動には意欲的に取り組むが、自分の運動を振り返り、もっとやりたい運動を選んだり、動きを工夫したりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業では一人一人の運動量の確保に努める。休み時間での遊び方が分からない児童のために、体育的活動で行うような簡単な運動を紹介して遊びのレパートリーを増やし、外遊びへの意欲を高める。 • 作戦、振り返りの時間を大切にする。対話的な学びを促すことで、自分の運動を振り返り、もっとやりたい運動を選んだり、動きを工夫したりできるようにする。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えや思いを広げ、深めたり、これからの自分のこととして置き換えて考えたりすることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • ねらいとする道徳的価値について、自分のこととして捉えるために、導入で自分の経験を想起させる時間を十分に確保する。また、発問に対して考える場をくり返し設定する。